

***8チャンネル分光偏光測光装置のフォトマルユニット2個収蔵**

表記観測装置は元天文台職員菊池 仙氏を中心に開発され、主に堂平観測所で使われたものである。筆者も変光星の測光観測をしていた最後の頃にお世話になった器械である。堂平観測所のカセグレン焦点に装着された姿が写真1である。

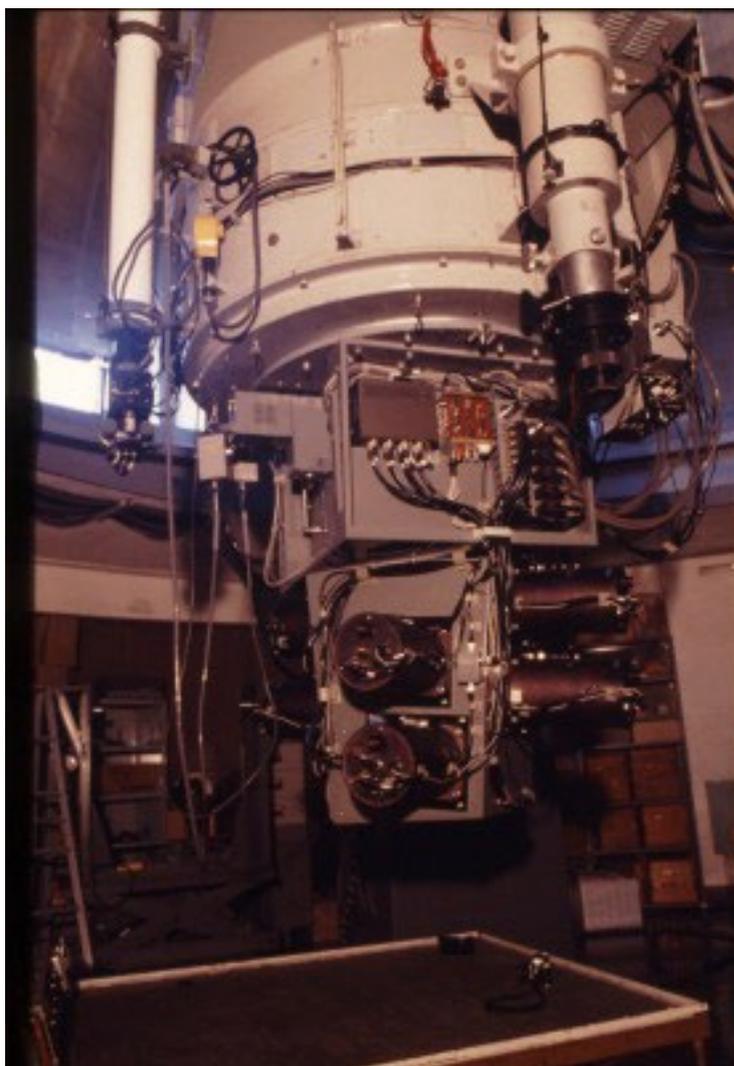


写真1 堂平観測所91cm望遠鏡カセグレン焦点の分光偏光測光観測装置

堂平観測所は2000年で閉所され、この8チャンネル分光偏光測光装置は一時は岡山天体物理観測所に引き取られたと聞いたことがあるが、筆者が大型光学赤外線望遠鏡「すばる」建設のため、ハワイに滞在していた頃のことなのでよく知らないでいる。この観測装置のその後の消息については情報がない。

2012年3月に定年退職したこの8チャンネル分光偏光測光装置の開発者の1人であった三上良孝氏から、この装置に使われていた光電子増倍管ユニット2個(写真2)をアーカイブ室に託され、収蔵した。光電子増倍管は入っていない。



写真2 収蔵した光電子増倍管ユニット2個

この光電子増倍管ユニットは、光電子増倍管の暗電流を抑えるためにドライアイスで冷やしていた。観測の前に丸棒状のドライアイスを切って(割って)小さな口から入れるのが大変な作業であった。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arctnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp